(4)平成27年度学校評価

ア　自己評価結果等

本年度の 重点目標	1　基本的生活習慣の確立　　2　授業の規律確保と充実　　3　進路実現に必要な力の養成 4　防災体制の整備　　5　自律的な健康管理力の向上　　6　美化・緑化の推進 7　生徒会活動の充実　　8　観光ﾋﾞｼﾞﾈｽｺｰｽの充実と地域連携の推進

担当	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務部	･防災体制の整備	・防災意識の高揚をはかる。東海地震に備え、啓蒙活動を行う。	・防災訓練３回の内、最終回は東北大震災の語り部を福島県より招いて話しを聞いた。震災４年が経過したこの時期に当時から現在までの現地の様子を改めて聞くことができて有意義だった。 ・防災セミナー参加生徒による文化祭でのバザーや展示を実施し校内での防災意識の高揚を図ることができた。
	･広報活動の充実	・体験入学、学校見学会を充実させる。図書情報部と連携し、ホームページの更新を頻繁に行う。	・体験入学の参加者は中学校の行事の関係で減少したが、年３回実施している学校見学会の参加者は増加した。 ・図書情報部と協力して、各行事終了後迅速に写真をＨＰに掲示して紹介することができた。
	･PTA活動の充実	・ＰＴＡ活動のより一層の活発化のため、役員・理事に協力を仰ぐ	・昨年度と同様に役員・理事の協力のもと充実したＰＴＡ活動ができた。次年度も継続したい。
	･同窓会活動の充実	・同窓会委員との話し合いを密にし、来年の総会に備える。役員会の内容を充実させる。	・今年度は総会実施年度ではなかったため、次年度の開催に向けて役員や各年度の委員に協力を依頼した。
教務部	･授業の規律確保と充実	･教科主任会を通して、授業の規律確保と充実に向けた方針をしっかりと伝え、教科会を通して全教員が一丸となって生徒の学習指導、授業規律の確保を目指す。	・教科、学年、分掌が連携してきめ細かな指導をしっかりと行うことができた。ますます多様化する生徒個々にあった指導方法については、今後の検討課題である。 ・十分な家庭学習という点では、今後も家庭へのお願いや連携を強化することが課題として残った。
	･基礎学力の向上		・担任会を中心に、常に効果的な材料を用いて基礎学力の向上を目指して朝学習の実施を心がけた。今後ともより効果的な教材を用いて基礎学力の向上に努めるとともに、進路目標の達成のために他の分掌とも連携して進めていく必要がある。
生徒指導部	･基本的生活習慣の確立	･欠席、遅刻、早退に対する適切な指導を行い、家庭と連携をとる。	･門限遅刻指導を通して、時間を守る事に対する意識付けができた。特定生徒の遅刻が多くなっている現状があり、その対応を検討する必要がある。
	･マナー、モラルの一層の向上	･身だしなみ指導の徹底を図る。 ･委員会活動を通じ挨拶を励行する。	･全職員の共通理解のもと、連携を図りながらな指導を行えた。 ･風紀委員会を活用し、挨拶運動等の活動がしっかりと行えた。
	･情報モラルの育成を図る	･講話･講演を通じ情報モラルの育成を図る。	･集会等を通しSNS利用に関する注意喚起が行えた。また、ネットパトロールの情報により個別の指導もおこなうことができた。 ･SNSに関する事件等を防止するためにも、外部講師の活用を検討していく必要がある。
保健厚生部	･自律的な健康管理能力の向上	･教員の観察能力の向上を図り、生徒の心身の健康状態の把握に努める。	・その時期に起こりやすい生徒の変調の特徴を各月ごとに健康観察のチェックポイントとして提示した。記入状況は担任による差が大きかった。記入したものが教員の情報共有できるようなシステムを作っていく必要がある。
		･「保健だより」などを通じて、生徒、保護者、職員の健康意識の向上を図る。	・「シリーズ　こころ」として、メンタルに関する内容を連載した。また、生徒保健委員には、興味ある内容をまとめさせ、紙面作りに参加さえた。また、文化祭ではＬＧＢＴに関するビデオ制作し発表した。多くの生徒がさらに興味を持ってくれるような内容に取り組む必要がある。
	･校内美化･緑化の推進	･清掃点検やゴミの分別指導と同時に校内緑化活動を充実させ、校内の環境整備を行う。	・ゴミの分別については多くの生徒に定着し良い状態であるが、一部分別が明確でないものがあり、対応を考える必要がある。 ・緑化については、生徒の意見より「緑のカーテン」づくりに取り組んだ。玄関横に作ったので、緑化委員の活動を多くの人に知らせることができた。来年度はさらにアピールできるよう取り組んでいきたい。
図書情報部	･読書指導の充実	･図書及び図書館のPRを行ない、授業や業後等における積極的な利用を促す。	・校内掲示物および図書館だより、図書通信で新刊案内やおすすめの本を紹介した。 ・写真部に協力してもらい、生徒が撮影した写真を展示し、図書館へ足を運んでもらう機会をつくった。 ・蔵書の整理と館内の環境整備を行なっていく必要がある。
		･読書感想文コンクールに参加し、読書の機会を増やす。	・読書感想文コンクールの案内および募集を行ない、読書の推進をはかった。 ・コンクールに向けて高校生向けの新刊や課題図書を閲覧用図書として揃えた。 ・教科や学年と連携した読書指導の機会をもっと増やす必要がある。
	･情報教育の推進	･視聴覚機器の整備を行ない、授業や行事での利用を推進する。	・視聴覚機器を使用する際に不具合がないよう、チェックを行ない必要に応じて調整をおこなった。 ・視聴覚機器のより使いやすいシステムや環境整備が必要である。

図書情報部	･情報教育の推進	･情報メディア(スマホ等)の過度な利用について、その弊害を説明し抑制を促す。	・１年生に向けたオリエンテーションの中で、スマホの利用に関する注意事項などについて話した。 ・１年生だけでなく、２・３年生にもメディア接触が生活や身体への影響について説明していく必要がある。
		･情報モラルの向上に努める。	・教員向けの研修で、情報モラルについて全校的に取り組む必要性を訴えた。 ・授業やＨＲの中で具体的にどんな実践ができるのかを提示していく必要がある。
	･適切な学校情報の発信	･HPの適時更新および定期的な掲載内容の充実を図る。	・ＨＰについて、迅速性、正確性、見やすさ、適切な内容かどうかなどを意識して更新をおこなった。 ・もっと多くの人から意見をもらえるようなシステムおよび働きかけをする必要がある。
進路指導部	･進路実現に必要な力の養成	･各学年会との連携を向上させる。	・各学年会からの意見を進路指導部会で集約し、年度途中でも必要性や要望から、保護者向けガイダンスを実施したり、模試適性検査等の内容・手順を変更したり、面接指導の回数の増加や学習会など各学年会と連携し内容の濃い柔軟な指導を展開することが出来た。 ・外部講師を迎えての進路ガイダンスでも、今年度新たな試みで実施をしたが、おおむね好評であり、さらに内容を充実させて今後も継続したい。 ・各クラス担任を中心として、進路相談のための資料を個々の必要性にあった内容で提供したり、直接、担任とともに個別の進路相談を行うことができた。
		･生徒の目線に立った校内ガイダンス、外部講師による講話等を充実させる。	
		･面接指導･作文小論文指導を充実させる。	
		･個別進路相談を充実させ、精選した進路情報を提供する。	
特別活動部	･生徒会活動をさらに自主的な活動として充実させる	･生徒の提案をもとに実施要項を作成し、行事の準備、後片付けなどの段取りも主体的に進められるよう指導していく。	・昨年度までと比較してかなり生徒会執行部との連携をとりながらの活動ができた。 ・教員側も経験を積み、また執行部生徒も年間を通して記録を残すように心掛けてきたことで、お互い次の流れを読み、仕事を進めることができるようになった。 ・今後は議員の活躍の場をつくっていきたい。
		･HRとの連絡調整機能を高める。	・まだまだ一方通行的な連絡会でしかないため、執行部からの問題提起、意見交換や議論ができるくらい時間的余裕も持って進めていきたい
	･HPや校内掲示を充実させ、校内を活気づかせる	･学校行事･部活動の話題で掲示板を飾り、生徒達の活躍の様子を伝える。	・少しずつではあるが、生徒会行事や大会結果報告のｽﾍﾟｰｽは広がり、掲示物を見ながら「話しの花」が咲いている様子も見られるようになった。ｲﾗｽﾄﾚｰｼｮﾝ部をはじめ、文化部の力をお借りしてより華やかにしていくことも考えたい。
第1学年	･基本的生活習慣の確立	･欠席、遅刻を減少させるための規則正しい生活習慣を身に付けさせる。	・欠席遅刻が年間通して大変多かった。様々な事情や悩みを抱える生徒も少なくないが、安易な欠席をしてしまう生徒も多く見られた。家庭ともそのつど連絡をとろうと試みはしたが、なかなかつながらないこともあった。日頃から安易な欠席がないように、声かけ等の指導を繰り返していき、生徒自身の意識を改善していく必要がある。
	･基礎学力の向上	･どの科目においても基礎学力を身に付けさせる。	・授業中の雰囲気等は悪くないが、生徒自身の意識が低く、学力向上は難しかった。家庭での学習時間をもっと確保できるとよい。また、朝学の内容も再検討していきたい。
	･部活動の活性化	･部活動に積極的に参加させる。	・概ね良好であるが、一部の生徒について、早期の段階でミスマッチとなり、次の部活もなかなか決まらず、宙ぶらりんになってしまった。登録の段階でもう少し時間をかけて考えられるとよいかもしれない。また、続けることの大切さも伝えていきたい。
第2学年	･基本的生活習慣の確立	･1年次に引き続き、進路実現を見据えた生活習慣を身につける。	・担任、副担任の指導の下、安易な欠席、遅刻、早退は最小限に減らすことができた。今後も継続していく。
	･学習意欲の向上	･基礎学力をはじめ、様々な学習活動を意欲的に取り組ませる。	・初めての試みとして、週３日、朝読書を開始した。落ち着いた雰囲気で読書ができた。今後は、読書を通じて感想を書かせる指導や読書にかわる進路実現に役立つ指導にも切り替えていく。
	･学校行事、部活動の充実	･修学旅行をはじめ、学校行事や部活動を成功･充実させる。	・修学旅行に関しては学年団、修学旅行委員を中心にしっかり準備をおこなえた。しかし、後手に回るものもあり、反省点も残る。また、他の行事や部活動に関しては２年生が中心に積極的に取り組めた。
	･進路実現への準備	･進路指導部と学年で連携を図り、進路実現に向けてきめ細かい指導、準備をおこなう。	・進路指導部と密な連携をはかり、現時点で必要な進路指導をおこなうことができた。今後は来年度に向けて、今以上に進路指導に時間をかけていきたいと思う。
	･人間形成の確立	･豊かな表情、素直な心を基盤に人間形成をおこなう。	・担任団、学年団が事あるごとに声かけをおこなった。しかし、一部の生徒へのアプローチに難しさを感じることがあった。担任、副担任、教科担当の指導にのってこられない生徒の指導をどうおこなうか課題となる。

第3学年	・進路実現にむけての学力伸長	・生徒の進路意識を向上させる。	・希望の進路の実現に学年全体で取り組むことができた。学校全体で協力したことが良い結果に繋がった。
		・進路実現のための基礎力をつけさせる。	・進路指導部との協力が特に重要なので、スムーズな組織運営が必要である。
		・面接指導を充実させる。	・一般常識力をつけるには朝学は十分な時間ではなかった。
	・積極的な部活動参加、学校行事参加を通じての積極性の向上	・部活動では最上級生としてチームをまとめ、悔いを残させない指導を行う。	・自主的な取り組みを促し、特に文化祭のステージ発表では生徒が自ら企画し運営させたため、大変良い経験をさせることができた。部活動でも最上級生として活躍させ、充実した時間を過ごさせることができた。
		・球技大会、文化祭、体育祭など行事に積極的に参加させ、学校全体を盛り上げる。	
	・社会性の涵養	・挨拶や礼儀、時間厳守、欠席・遅刻の減少に加え、コミュニケーション能力の育成など社会性を養い、人間育成を行う。	・学校祭などの行事を通じ、社会性を伸ばし将来の力となるよう指導できた。
商業・ 情報処理科	・観光コースの学校設定科目（3年生）の実践と評価・検証	・実施内容と指導方法を検証し、次年度に向けての改善策を検討する。	・おおむね前年度の取組を引き継ぐことができた。しかし、前年度の反省等の申し送りがうまくいかず授業で混乱することもあった。来年度は授業担当者間の連携を密にし、検討委員会や商業科会を通じて問題の解決を図りたい。
	・新カリキュラムにおける新科目（3年生）の実践と評価	・実施内容と指導方法を検討する。	・新しい内容で、試行錯誤をしながら進めた部分もあったが、ほぼ予定通り実施することができた。 ・来年度は今年度の反省を踏まえ、さらに充実した内容になるように研究を進めいていきたい。
	・専門的知識の習得と資格取得	・各コースの特色が出せるよう検討する。各種検定前に学習会を行う。	・各コースの特色が出せるよう内容を検討した。目標検定にもおおむね取り組むことができたが、進学会計コースの目標である日商簿記検定については今後内容が難しくなるため、検討が必要である。 ・今年度は外部講師の招聘を多くし、新しい知識・技術の習得に力を入れた。
	・商業科・情報処理科の広報宣伝	・HP、出前授業、体験入学、学校説明会などを通してより広く知ってもらう。	・出前授業・体験入学・学校説明会で、リーフレットや生徒の作品等を用い広報を行った。 ・今年度も課題研究の講座で、新しい商品（パン・和菓子）を開発し、新聞・ラジオ等でＰＲをすることができた。
生活文化科	・専門的な知識や技術の習得と資格の取得	・外部講師の活用や個に応じた指導を充実させ、各コースの専門性を高める。	・調理・保育・インテリア・介護や福祉等の外部講師とともに講習会を実施し、より専門性の高い指導を行った。また、個に応じた指導を充実させ知識や技術の定着を図った。 ・各種の資格取得やコンクールへの応募等に取り組ませ、良い成果をあげることができた。
		・各種の資格習得やコンクール等に挑戦させる。	
	・学科行事および学校家庭クラブ活動の充実	・年間を通じて、学科行事や家庭クラブ活動への効果的な指導を行う。	・学科行事や家庭クラブ活動を通して地域や他校との交流を深め、生徒の社会性やコミュニケーション能力の育成を図ることができた。また、校内掲示等で生徒の活動報告を行うことができたが、来年度はさらにホームページの更新にも努めていきたい。
福祉科	・学科の特色を活かした進路実現	・学科と担任の連携を図り、進路に関する個別面接指導を充実させる。	・学科、担任、進路指導部と連携を図り、生徒の進路実現を概ね達成することができた。生徒の進路希望が多様化していることを受けて、今後は早期に実態を把握し、生徒や家庭とも連携を取りながら進めていきたい。
	・新教育課程における授業展開の検討・評価	・授業担当者のみならず、福祉科教員の授業参観等を通して、授業展開方法を検証し、来年度に向けて具体的に検証する。	・授業については担当者間で情報交換を行うことができた。しかし、今年度は科会の時間が十分に設けられず、福祉科教員全員で共通認識を図ることが難しかった。法改正などに伴い、授業展開方法を改めて考えなければならないこともある為、共通理解のもと進めていきたい。
	・介護福祉士国家試験合格に向けた学習指導	・模擬試験の活用や補習を効果的に活用し、介護福祉士国家試験合格に向けた取り組みを進める。	・計画通りに進めることができた。また、生徒の苦手科目を中心に講義を行ったり、国家試験に向けての意識を高めるよう適宜指導した。試験内容及び結果が分かり次第、内容確認し来年度以降の国家試験対策へと繋げていきたい。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		1　基本的生活習慣の確立について 2　規律ある学習指導と学力の伸長について 3　進路指導における進路実現について 4　防災体制について 5　自律的な健康管理について 6　校内の美化・緑化について 7　部活動の活性化について 8　地域連携の充実について	